

山古志分校敷地内のオキナグサ群落

戸田 明

県立長岡農業高等学校山古志分校に赴任して3年目。今春も、分校の敷地の一角に、オキナグサの花がたくさん咲いていた。絶滅危惧種Ⅱ類に指定されるほど減少しているオキナグサが、こんなにたくさん見られるのも、過疎地・山古志村ならではか。



この分校のオキナグサ、聞いた限りの話では、人工的に植えたわけではなく、勝手に生育しているらしい。それでも現在の校舎は1977年に新しい土地に新築されたものだから、その後に誰かが移植したか、あるいは種を蒔いたのかもしれない。いずれにせよ、この十年ほどは、ほぼ自然繁殖の状態にある。どこにでも生えているわけではなく、校地内でも、何度も草刈りされる場所に限って生えている。どうやら、林はもちろん、他の草木が青々と茂るような草原は苦手ようだ。生存競争には弱いのだろうか。しかし、群落では細々と暮らしているところか、直径30~40ほどの範囲に葉を広げる大株が、ざっと20株ほど、人工的な花壇のように堂々と茂っている。試しに自宅の庭に移植したら、



大きく育ってたくさん花をつけたから、けっして生命力は弱くはないと思得。実生を試した人によると、発芽率は低く、1割程度らしい。



この3年間、村内あちこちを山菜採り・茸狩りがてら・調査しているが、分校の他にはオキナグサを見ることがない。実生でも発芽する、その種子が、ざっと数千個は、毎年、飛び散っているはずなのに山古志村は有名な闘牛の里であり、近くには放牧地もある。放牧地はオキナグサの生育に最適と思われるが、そこでも見つからない。地元の人に昔の様子を尋ねると、ほんのちょっと前までは、道端にも、田畑の畦にも、いくらでも生えていたようだ。それなのに、今や全く見つからないのは、除草剤の影響か。山古志村、特に種芋原地区は、一見するとまだまだ里山の自然が残り、山菜も茸もたくさん採れるし、時には頭上を鷹が舞う姿も見られ、狸や狐の話題にも事欠かない。それでも、刻々と本来の自然が失われつつあるのだろうか。

先日、新潟県教育委員会より、高校整備基本計画の中間報告が発表された。それによると、今後十年間に県立高校を10校程度減らすのだという。山古志分校を含む県内7つの分校も、いつ募集停止になるかと戦々兢兢としている。このオキナグサ群落は、分校があって、手入れされているからこそその繁栄であり、分校が募集停止になり、草刈りが為されなくなれば、すぐにも絶滅する運命にあらう。自然分布とは言い難いが、これほどの人里近くには奇跡的に残ったオキナグサ群落が、みすみす失われるようなことのないように願うばかりである。(写真は生育状況)